

令和元年度  
高知市男女共同参画に関する  
市民の意識調査報告書

【概要版】



令和 2 年 1 月  
高 知 市

## 調 査 概 要

- 調査目的：本調査は、男女共同参画に関する市民の意識、浸透度の現状把握を行い、今後高知市が取り組むべき男女共同参画施策の次期プラン策定に向けての指標とすることを目的に実施しました。  
本概要版は、令和元年 10 月に実施した調査の結果を広く市民の皆さんにお知らせし、男女共同参画に関する認識を深めていただくため、作成したものです。
- 調査対象：20 歳～79 歳までの市民 3,000 人（無作為抽出）  
（女性 1,567 人、男性 1,433 人）
- 調査内容：男女平等に関する意識について  
家庭や仕事について  
DV（ドメスティック・バイオレンス）について  
セクシャル・ハラスメント（性的いやがらせ）について  
学校現場における男女平等教育について  
男女共同参画に関する用語について  
高知市の男女共同参画への取り組みについて
- 回収状況：有効回収数 1,023 人（有効回収率 34.1%）  
[回答者の属性]  
性 別-女性 59.1%、男性 39.9%  
年代別-20 代 6.1%、30 代 11.7%、40 代 18.7%、50 代 19.0%、  
60 代 21.5%、70 代以上 22.0%、無回答 0.2%
- 調査方法：郵送調査法
- 調査期間：令和元年 10 月 10 日～11 月 11 日
- 実施機関：高知市人権同和・男女共同参画課

### ※表の読み方

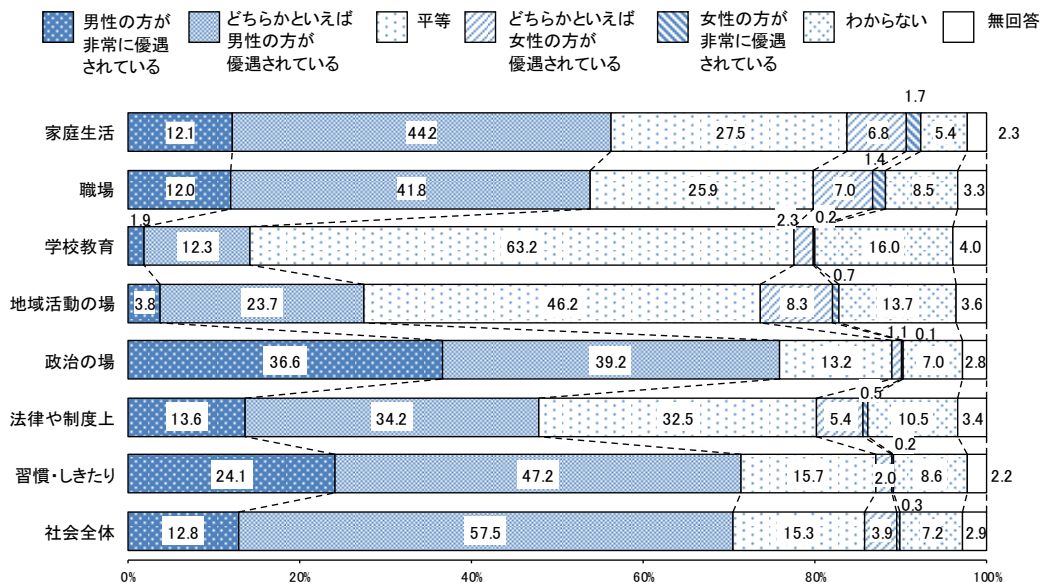
- ・Nとは、回答総数（あるいは分類別の回答者数）のことです。
- ・回答率（各回答の百分率）は、Nを基数として算出し、少数点第2位を四捨五入しました。  
このため、個々の構成比の合計が100.0%にならない場合（99.9%、100.1%など）があります。
- ・1人の対象者に2つ以上の複数回答（「2つまで」「3つまで」「いくつでも」など）を認めた質問の場合、構成比の合計は、回答者数を基数としているので100%を超えることがあります。

# 男女平等に関する意識について

## ●男女の平等感

男女の平等感について、全体でみると「学校教育」と「地域活動の場」は「平等」が最も高く、そのほかの項目では、「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合せた『男性が優遇されている』が高くなっています。

図 各分野における男女平等に関する意識

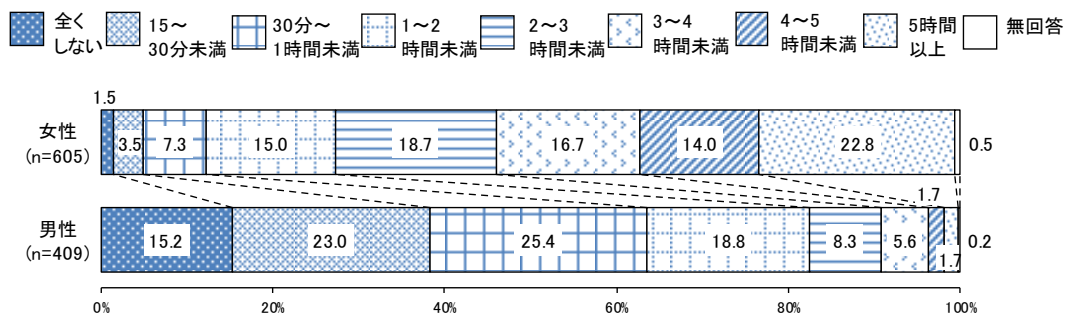


# 家庭や仕事について

## ●家事、育児、介護など家庭生活にかかわる時間

1日の家事、育児、介護などの時間について性別にみると、女性は「5時間以上」の割合が22.8%と最も高く、次いで「2～3時間未満」が18.7%となっています。男性は「30分～1時間未満」が25.4%と最も高く、次いで「15～30分未満」が23.0%、「1～2時間未満」が18.8%、となっています。女性は「2時間以上」が7割以上、男性は2時間未満の合計が8割以上を占めています。「全くしない」については、女性が1.5%に対して、男性は15.2%となっています。

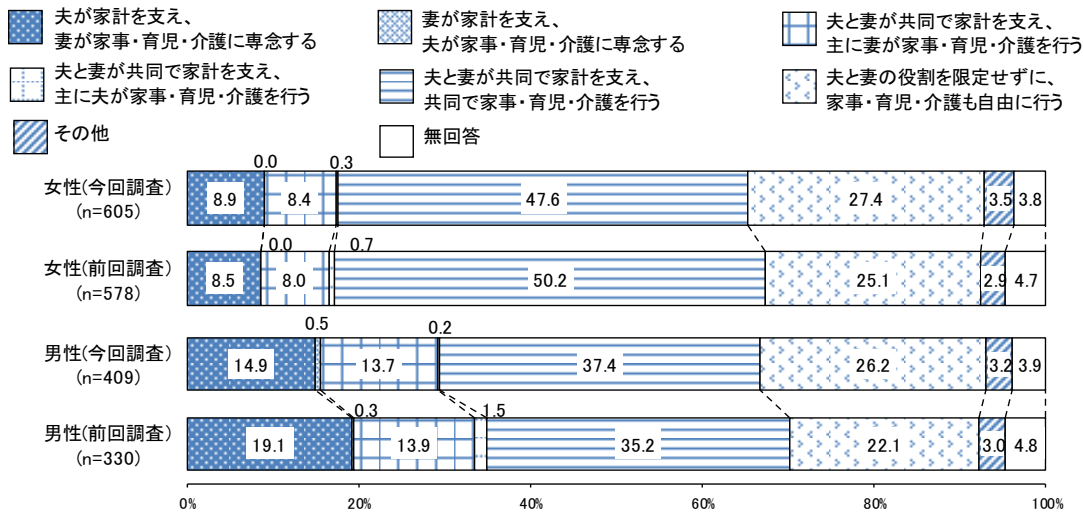
図 1日の家事、育児、介護などの時間



## ●家庭における男女の役割分担の理想

家庭における男女の役割分担の理想について性別にみると、男女ともに「夫と妻が共同で家計を支え、共同で家事・育児・介護を行う」が最も高くなっていますが、その割合は女性が（今回：47.6%、前回：50.2%）に対して、男性は（今回：37.4%、前回：35.2%）と女性が男性より10～15ポイント程度高くなっています。次いで高いのも男女ともに同じで「夫と妻の役割を限定せずに、家事・育児・介護も自由に行う」が続き、女性が（今回：27.4%、前回：25.1%）、男性は（今回：26.2%、前回：22.1%）となっています。

図 家庭における男女の役割分担の理想

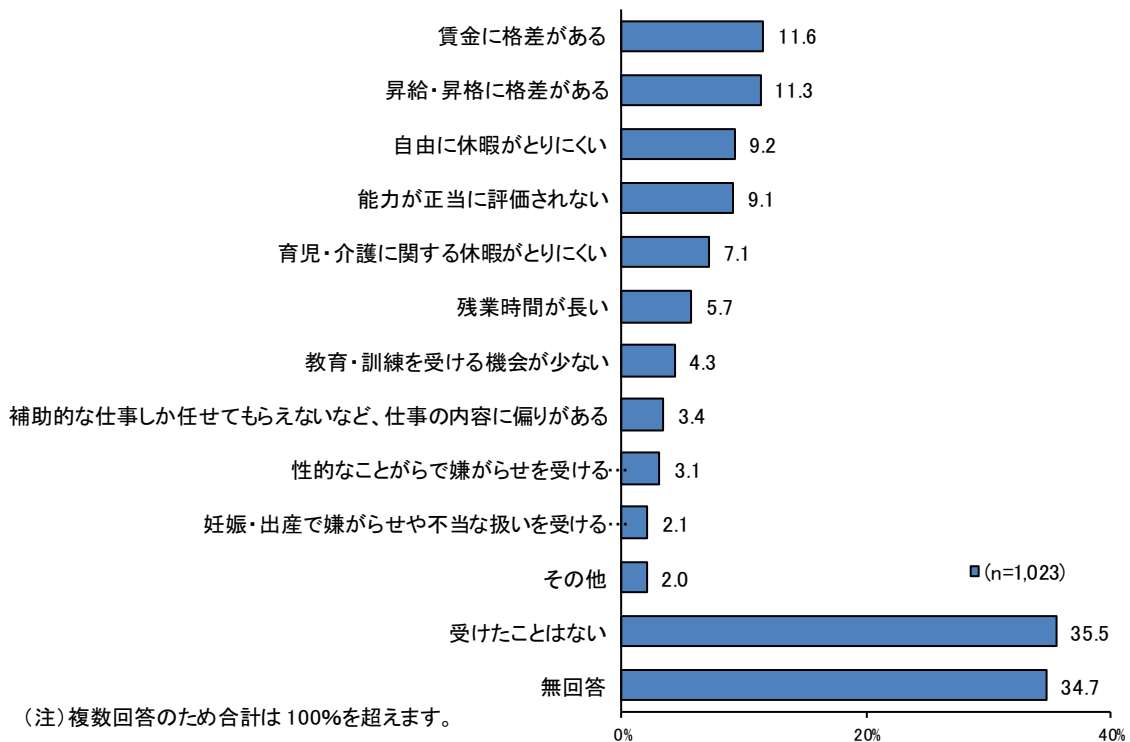


前回調査：平成26年度実施

## ●性別の違いによる不当な扱い（複数回答）

性別の違いによる不当な扱いについては、「受けたことはない」が最も高く、35.5%を占めています。これを除いた上位3項目は「賃金に格差がある」（11.6%）、「昇給・昇格に格差がある」（11.3%）、「自由に休暇がとりにくい」（9.2%）となっています。

図 性別の違いによる不当な扱い

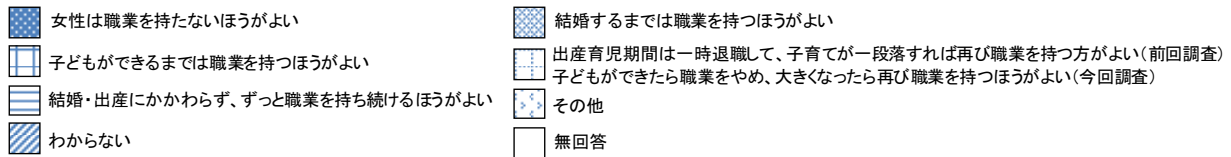


## ●女性の働き方の理想

女性の働き方の理想について性別にみると、男女ともに「結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」が最も高く、女性が58.0%、男性が52.3%と半数以上を占めています。次いで高いのも男女ともに同じで「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業を持つほうがよい」が続き、女性が25.8%、男性が26.9%となっています。

前回調査と比較すると、「結婚・出産にかかわらず、ずっと職業を持ち続けるほうがよい」の割合が、女性（今回：58.0%、前回：35.1%）、男性（今回：52.3%、前回：28.8%）ともに23ポイント程度高くなっています。

図 女性の働き方の理想

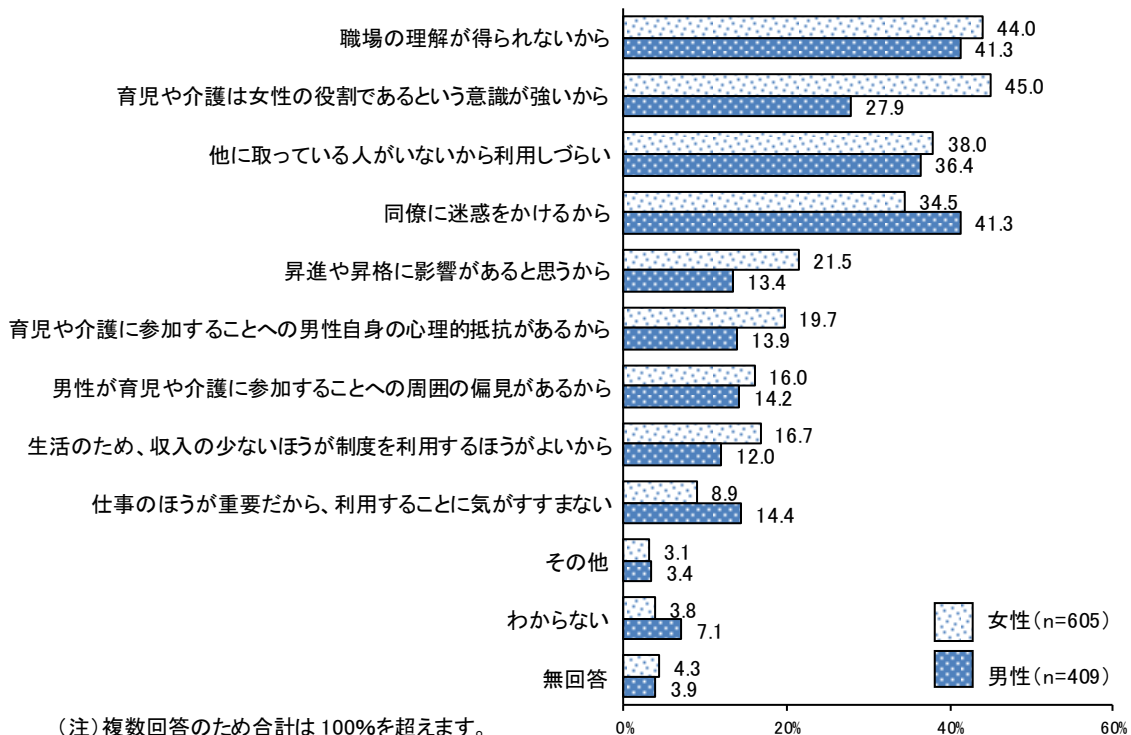


前回調査：平成26年度実施

## ●男性の「育児休業制度」、「介護休業制度」の利用がすすまない理由

男性の「育児休業制度」、「介護休業制度」の利用がすすまない理由について性別にみると、女性では「育児や介護は女性の役割であるという意識が強いから」が45.0%と最も高く、男性よりも17.1ポイント高くなっています。次いで「職場の理解が得られないから」(44.0%)が高くなっています。男性では「職場の理解が得られないから」「同僚に迷惑をかけるから」がともに41.3%で最も高くなっています。

図 男性の「育児休業制度」、「介護休業制度」の利用がすすまない理由



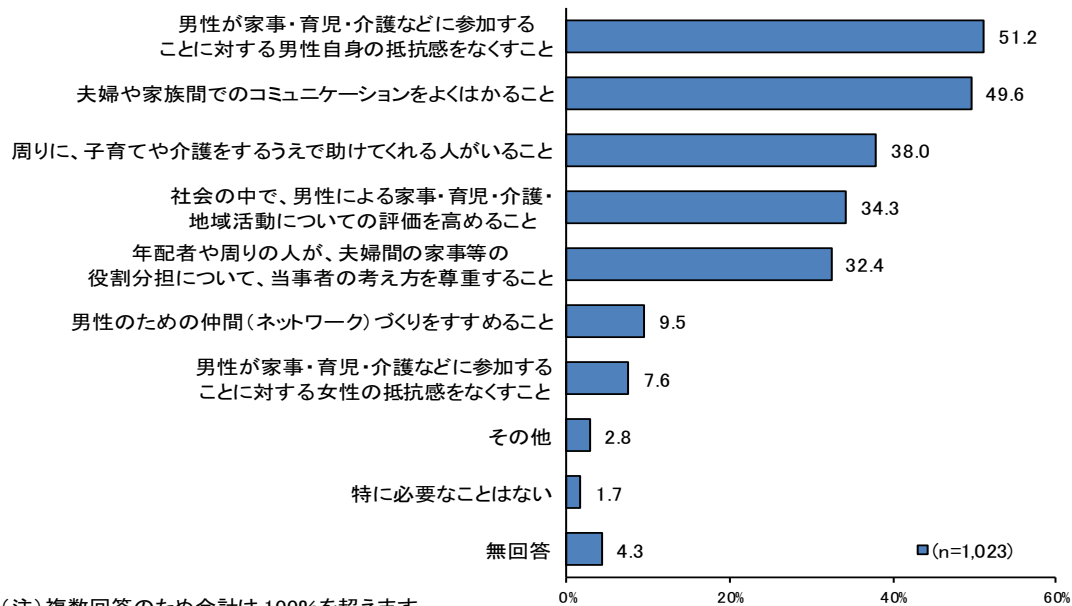
(注) 複数回答のため合計は100%を超えます。

●女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくために必要なこと（複数回答）

(ア) 家族や地域において必要なこと

女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくために家族や地域において必要なことについてみると、「男性が家事・育児・介護などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(51.2%)と「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(49.6%)が約 5 割で高くなっており、次いで「周りに、子育てや介護をするうえで助けてくれる人がいること」(38.0%)も約 4 割を占めています。

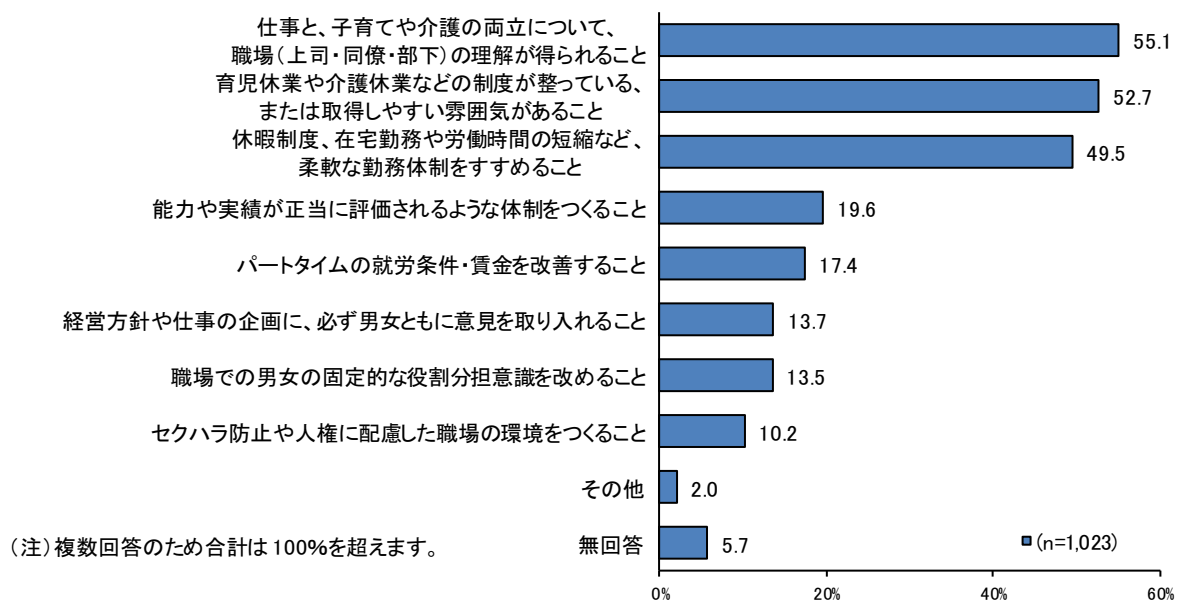
図 家族や地域において必要なこと



(イ) 企業など職場において必要なこと

女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくために企業など職場において必要なことについてみると、「仕事と、子育てや介護の両立について、職場(上司・同僚・部下)の理解が得られること」が55.1%で最も高く、次いで「育児休業や介護休業などの制度が整っている、または取得しやすい雰囲気があること」(52.7%)、「休暇制度、在宅勤務や労働時間の短縮など、柔軟な勤務体制をすすめること」(49.5%)がともに約 5 割となっています。

図 企業や職場において必要なこと

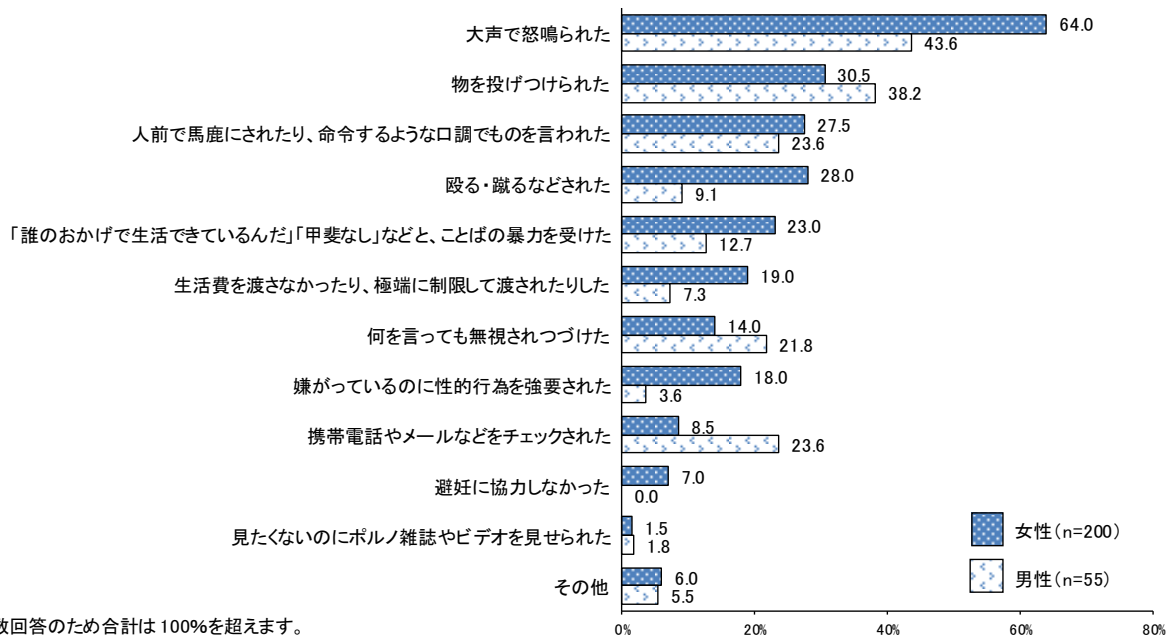


# DV（ドメスティック・バイオレンス）について

## ●配偶者や恋人などのパートナーからされた行為（複数回答）

DVを受けたことのある人の割合は全体の25.2%となっています。配偶者や恋人などのパートナーからされた行為について性別にみると、男女とも「大声で怒鳴られた」が最も高く、女性64.0%、男性43.6%となっており、次いで「物を投げつけられた」が女性30.5%、男性38.2%の順となっています。

図 DVにあたる行為の経験

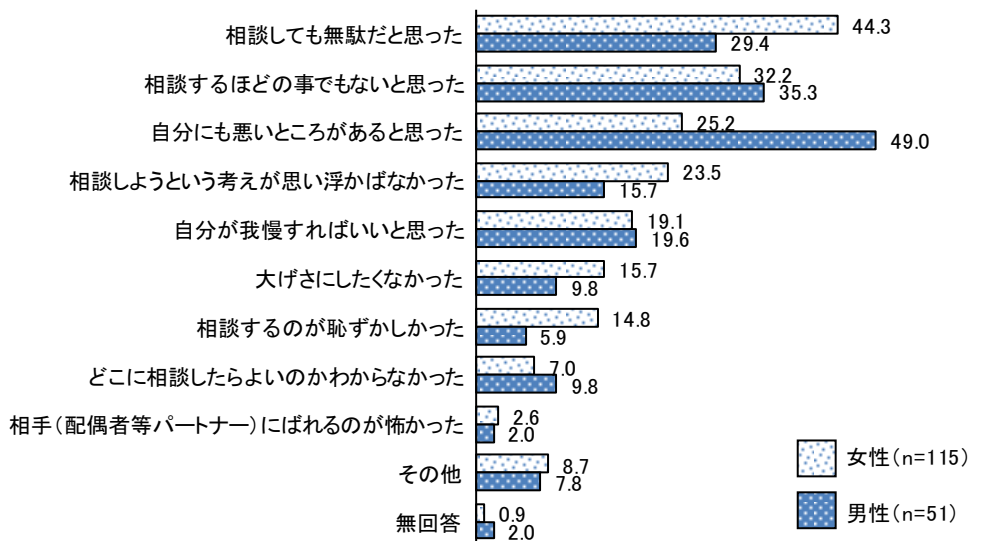


(注) 複数回答のため合計は100%を超えます。

## ●配偶者や恋人などのパートナーからされた行為について相談しなかった理由（複数回答）

配偶者や恋人などのパートナーからされた行為について相談しなかった理由を性別にみると、女性では「相談しても無駄だと思った」(44.3%)と「相談するほどの事でもないと思った」(32.2%)、男性では「自分にも悪いところがあると思った」(49.0%)と「相談するほどの事でもないと思った」(35.3%)が上位2項目に挙げられています。

図 配偶者や恋人などのパートナーからされた行為について相談しなかった理由

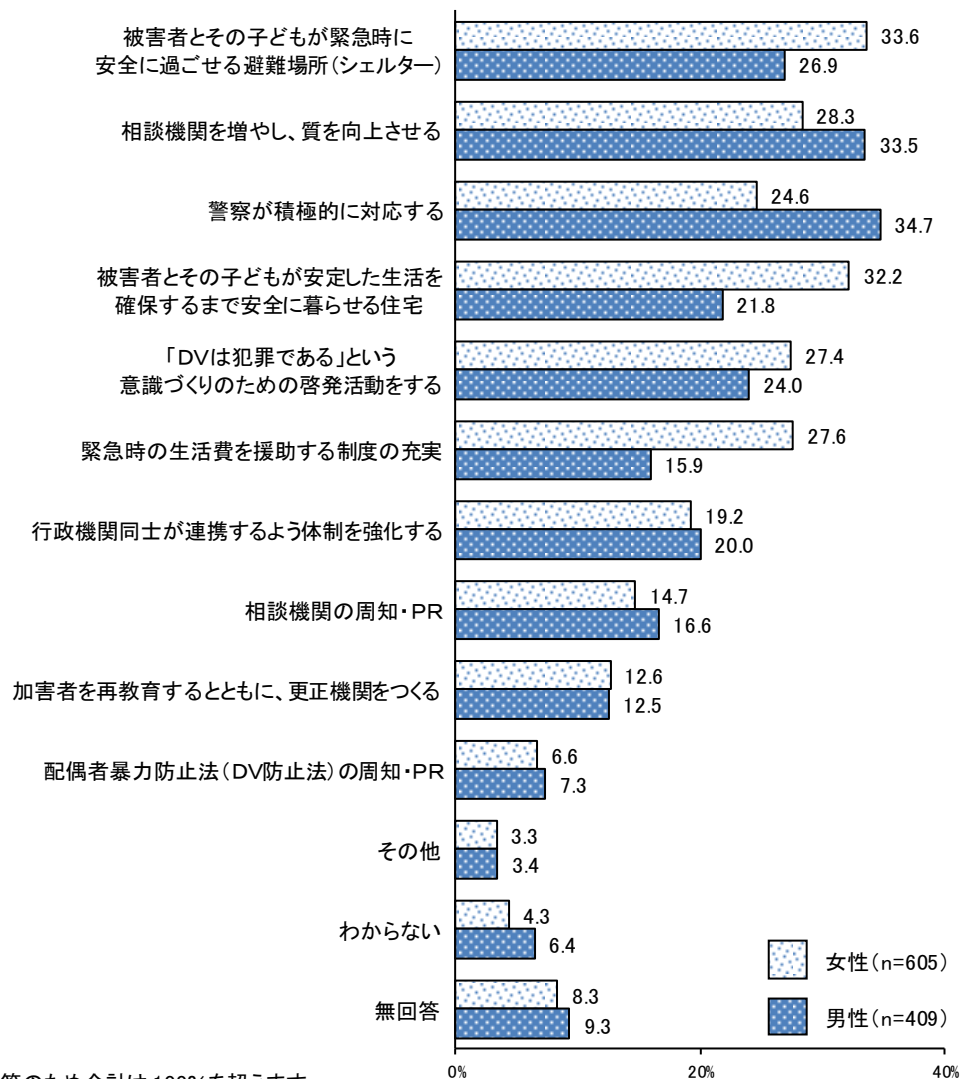


(注) 複数回答のため合計は100%を超えます。

## ●配偶者や恋人などのパートナーからの暴力に対する対策や援助

配偶者や恋人などのパートナーからの暴力に対する対策や援助について性別にみると、女性では「被害者とその子どもが緊急時に安全に過ごせる避難場所（シェルター）」（33.6%）、男性では「警察が積極的に対応する」（34.7%）が最も高くなっています。「被害者とその子どもが安定した生活を確保するまで安全に暮らせる住宅」は女性では32.2%と2番目に挙げられていますが、男性では女性よりも10.4ポイント低い21.8%にとどまっています。また、「緊急時の生活費を援助する制度の充実」（女性27.6%、男性15.9%）も男女で回答割合の差が大きくなっており、女性の方が男性よりも、DVの対策として安全な避難場所や住宅、経済的な支援などの被害者に対する具体的な支援が必要と思う傾向がうかがえます。

図 配偶者や恋人などのパートナーからの暴力に対する対策や援助



(注) 複数回答のため合計は100%を超えます。



# 高知市の男女共同参画施策について

## ●高知市の男女共同参画の取り組みについて

今後必要な高知市の取り組みについては、＜介護に関するサービスを充実する＞（66.4%）は「必要」の割合が6割を超えて最も高く、次いで＜育児に関するサービスを充実する＞が58.0%、＜学校教育や社会教育の場で、男女の人権を尊重するような学習を行う＞が53.2%と5割を超えて続いています。

また、ここで挙げた全ての男女共同参画施策について、6割以上が必要（必要+どちらかといえば必要）と回答しています。

図 今後必要な高知市の取組

